



北里大学同窓会 栃木県支部

ニュースNo.24 (2017年8月1日)

Relay for Life JAPAN 2017 in Tochigi
福島競馬場見学ツアー 参加者募集



北里大学同窓会栃木

栃木県支部ホームページQRコードです。
スマートフォンでのアクセスに利用下さい。

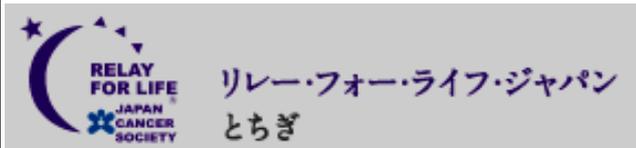
Relay for Life JAPAN 2017 in Tochigi に参加しませんか

チーム・リーダー 岸 善明
サブ・リーダー 齋藤けさよ

北里大学同窓会栃木県支部会員の皆さん。

今年も、栃木県支部では Relay for Life JAPAN 2017 in Tochigi に参加します。

Relay for Life はアメリカがん協会 (American Cancer Society) が行うチャリティーイベントで、がんについて啓発し、がん患者の勇気を称え、がん研究や患者支援のために寄付を集めることを目的として全米では毎年約5000カ所で開催され、います。現在、世界24か国で開催されており、日本でも Relay for Life JAPAN として2006年から始まりました。



栃木県では2012年、「宇都宮城址公園」において初めての「リレーフォーライフ」が開催されました。2015年の第4回からは現在の壬生町総合公園陸上競技場で開催しています。栃木県支部では第一回から参加し、24時間リレー・ウォークにも参加しています。

がんは特別な病気ではありません。又、人間だけの病気ではなく、家畜や魚類を含めた全ての動植物に起こりうる病気です。今は、誰もが経験する病気として、「あなた」ではなく「私」の問題としてとらえる時です。

サバイバー (がん体験者) が不必要に不利な立場に追い込まれることがないように、がんになってからがんを知るのではなく、がんをより身近なものとして考えられ、更に社会のがんに対する認識を変えていけるように、参加者に交流・情報交換・啓発の場を提供するのが、リレーフォーライフのイベントです。



北里大学同窓会栃木県支部チームとして参加することで、「生命科学の総合大学」としての北里大学の宣伝も兼ねています。同窓生チームとしてタスキをつなぎ、リレー・ウォークとして24時間歩きたいと思っています。

24時間リレー・ウォークには気軽にご参加ください。30分間でも1時間でも可能です。自分の都合の良い時寛に家族連れやお友達と参加して下さい。



会場には栃木県支部のテントもあり、疲れたら休み、同窓生との会話を楽しんだりとも出来ます。

参加費等の費用は支部の方で負担します。参加者には担当者から詳しい連絡を致します。

開催日時：2017年9月16日(土) 12:00(正午)～
2017年9月17日(日) 12:00

開催場所：壬生町総合公園陸上競技場

参加申込み：

齋藤けさよ 携帯電話；09030685437

メール kesayottochanika@docomo.ne.jp

滝支部長 携帯電話；09065331555

メール tatabox@kitasato-u.ac.jp

会場で会いましょう。



北里大学同窓会栃木県支部支部長 滝 龍雄
 獣医学部同窓会紅緑会栃木支部支部長 兼丸 卓美
 世話人 齋藤 けさよ
 皆さんは、実際に走っている馬を間近に観たことがありますか？疾駆する姿は美しいですよ!!



今年も北里大学同窓会栃木県支部と獣医学部同窓会紅緑会栃木支部合同で福島競馬場見学ツアーを開催します。
 参加人数は、観覧室（来賓室）の大きさの関係で大人先着 35 名とさせていただきます。ご家族やお友達との参加も出来ます。

開催日：2017年11月11日（土）
 交通手段：貸し切りバス使用
 集合場所：済生会宇都宮病院（看護専門学校前）、
 又は、栃木県畜産酪農研究センター
 参加費：交通費（概算 5,000 円）＋昼食代（実費）
 参加申込み：
 齋藤けさよ 携帯電話；09030685437
 メール kesayottochanika@docomo.ne.jp

初心者の方にも、競馬の楽しみ方、様々な種類の馬券の買い方をレクチャーします。

皆さん、一緒に馬の走る姿を見に行きましょう！

支部新年会2018のお知らせ

済生会宇都宮病院 塚原 訓子
 皆さん、来年も栃木県支部の新年会を済生会宇都宮病院が世話人となって開催します。もっか、世話人が手分けして、皆さんに満足して頂ける素晴らしい会場を探しています。

新年会の会場、会費等は次号の支部会ニュースでお知らせします。是非、来年2月17日、土曜日の夕方に支部の新年会の予定を入れておいてください。栃木ではなかなか手に入らない、北里大学のマークの入った景品の当たるビンゴゲームもやる予定です。

北里大学同窓会栃木県支部新年会
 開催日：2018年2月17日（土）夕方～夜



1994PP 中野 睦月

平成 29 年 7 月 2 日午後 2 時。暑い中、一般からの参加も含めて約 100 人が、2014 年イグノーベル物理学賞受賞者・馬淵清資先生の講演会聴講のために集まりました。



まずは「なぜバナナの皮が実際どれくらい滑るかを研究することになったか」。馬淵先生のご専門が人工関節であることから、かつて『関節の滑りのよさは、バナナの皮の滑りのよさを連想させる』と記述されたことがきっかけでした。このあたりは、前回の会報に先生ご自身の言葉で詳しく述べられているとおりです。その後馬淵先生によって、バナナの皮は踏むことによって滑ること（踏んでヌルヌルが滲み出ることが大事です）、踏んで滑ったときの摩擦係数はスキーの滑りにも匹敵することが立証されました。

講演中には本物のバナナを用いて、皮をただ斜めのガラスの板にのせても滑らないこと、踏む角度や重さのかけ方にもよること、凍った道で滑らないように歩くコツを示していただきました。更には、地球上でよく滑るものは生物由来の有機物であること、私たちの関節が日頃スムーズに滑ってくれることがいかに素晴らしいことかを教えていただき、目からウロコでした。

イグノーベル賞は『Funny and Think（人々を笑わせ、考えさせてくれる研究）』に送られるということで日本人科学者も度々受賞されますが、馬淵先生は「科学に実用性ばかり求めると、おもしろい研究が生まれなくなる」ことを危惧されておられました。そして人工関節業界の闇ともいべきウラ話もあり、医療人として考えさせられるものでした。

締めくくりでは、授賞式での講演時間 60 秒で歌い切れなかった『I Will Follow Him』の替え歌をアカペラで披露され、その後の質疑応答では会場から積極的に手が上がり、盛況のうちに閉会しました。

次にお待ちかねの懇親会は竹園で。馬淵先生のリクエストによる中華料理ということで、大きなターンテーブル

ル2つに約 25 名の会員が出席し、支部長の挨拶後、福島一哉先生の乾杯のご発声で始まりました。会の途中では、同窓会本部の中山様より栃木県支部の活動へのご評価もいただきました。



さあ馬淵先生と直接お話できるチャンスです。私も酔いがまわったところで、先生にお酌すべくジンジャーエールを持って近づきました（先生はアルコールを飲めない体質だそうです）。とても親しみやすく、ほろ酔いの私のテンションにも合わせてくださいました。だんだんと先生を囲んだ輪ができあがり、あっという間の懇親会となりました。



そして勿論、有志を募っての二次会へ。以前にもお世話になったシテオーベルジュに 10 名ほどがお邪魔しました。こちらでの話題は、馬淵先生がイグノーベル賞受賞を知るまで、渡航手続きとボストンでの荷物のトラブル、授賞式後の夕食会の驚きの結末、賞金 10 兆ジンバブエドルの正体など本当はこれらを中心に書きたいくらいなのですが、いずれ先生ご自身がこれらのエピソードをご本にされるとか…。みなさま、その暁にはぜひお手にとってください！まさに抱腹絶倒、事実は小説より奇なりであります！



お開きになって別れ際、乃木坂 46 にお詳しい馬淵先

生が『推しメン』を教えてくださいました。生涯忘れられないであろうお言葉を残されました。それがタイトルに使いましたこれです。【ニュートンのリンゴ、マブチのバナナ！】馬淵先生、長い時間お付き合いいただきまして、誠にありがとうございました。



このような経験ができますのも、栃木県支部長以下、役員の方々のご尽力によるものです。会員の皆様もぜひ、同窓会からお知らせが届きましたら一度参加してみてください。北里大学は、生命科学に貢献する人材の宝庫であることが確認でき、励みになることと思います。次回、お会いできますことを楽しみにしております。

馬淵先生講演会 感想文

石川響子

この度、北里大学同窓会栃木支部に加えて頂きました、石川響子と申します。

私は、本学の 6 年制薬学部の一二期生であり、卒業後は大学院に進学し、博士号を取得致しました。現在は化粧品の研究に従事しております。



講演会では、イグノーベル賞を受賞されたバナナの研究の他、人工関節に対する熱い思いを拝聴することができました。そして、何よりも先生のユーモラスで気さくなお人柄が大変印象に残りました。

そして、そんな先生だからこそ、

「関節」といったら「すべる」

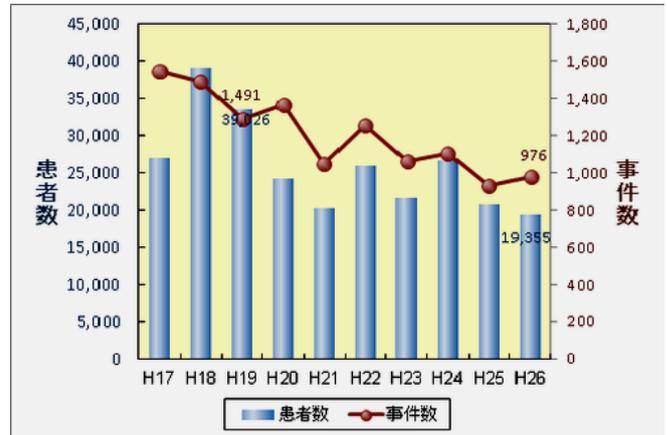
「すべる」といったら「バナナ」

の、連想ゲームを科学の力で証明してみせちゃうのだと、納得してしまいました。研究を進める中で、行き詰

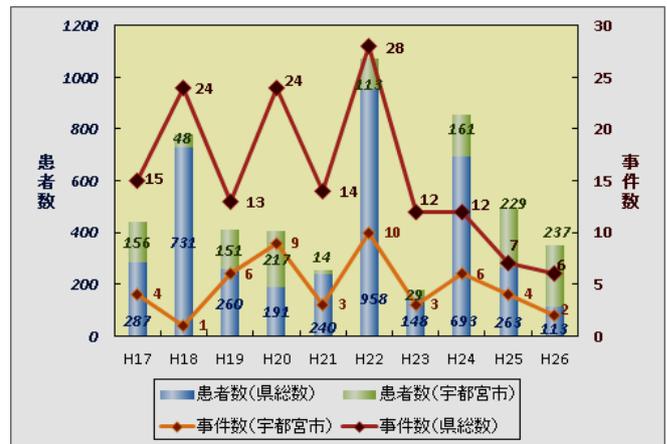
食中毒の話

滝 龍雄

会員の皆様は、日本で食中毒が年間どのくらい発生しているか知っていますか？日本全国では毎年減少傾向にありますが、それでも平成28年の1年間で、食中毒は1,139件（患者：20,252人、死者14人）報。告。されてます。その大部分は微生物によるものです



栃木県では非常に変動が多いのですが、M年間10数件、患者数で200人前後です。昨年（平成28年）は19件で795人の患者が出ました。



栃木県での特徴は、カンピロバクターからノロウイルスが原因因子と圧倒的に増えてきたことと、毒キノコやアニキサスによる食中毒が散見されることです。

ところで、皆さんは、食中毒が発生した時に、原因を調べるために保健所などではどのように対応しているかご存知ですか？実際の所を保健所に勤務されている千野根さんに教えていただきました。

食中毒事件の裏では……

千野根純子

それは、何故か週末の午後にやってきます。「食中毒届け」……

ほとんどの方は、ここから保健所で何が行われるかを経験していないと思いますので、今回は検査の現場のドタバタ(?)をご紹介します。

まった時、今までとは違った見方ができると解決にぐっと近づけることがあります。今回の講演では、そういった発想のヒントは、日常の当たり前と置いていたところに、沢山隠れているのだと教えて頂いたように思いました。そして、生み出した研究成果それ自身が大きな価値であるだけでなく、また新しく顔も知らない誰かの仕事に影響を与えていくことも含めて研究にロマンを感じました。

大変有意義な時間を過ごさせて頂きまして、誠にありがとうございました。

馬淵名誉教授・講演会 感想

松永俊明

先日はイグノーベル賞を受賞された馬淵名誉教授のご講演を拝聴させて頂き有難うございました。イグノーベル賞は人を笑わせ、考えさせ、しかも独創性のある研究に与えられる世界的な賞であることから先生のご講演を楽しみにしておりました。

ご講演は、馬淵先生ご自身の研究テーマである「人工関節の滑りの改善」から端を発して滑り易い有機物を探るべく、日常見逃してしまいそうなバナナの皮の滑りに着眼し、摩擦を比較検討するという遊び心いっぱいの実験を通して科学とは何かについてのお考えでした。

しかも、講演の結びには、関節の模型とバナナを両手に掲げながら研究の概要を生歌で披露されたサービス精神満載の講演には、心底から笑いに誘われる楽しい一時でした。



今まで、いろいろな方々のご講演を聞いて、楽しかったり、感激したり、場合によっては不完全燃焼の講演があったりしましたが、馬淵名誉教授のどんな些細な現象であっても自ら興味を持った事を一途に打ち込み、ひたすら実験を重ねて数値を導き出し、その結果に興奮を覚え楽しさを深める話は、今までの講演とは一味も二味も違う人生応援歌のような講演会でした。振り返って、老齢な私自身の身の処し方にも多くの教訓をいただき、このような催しに触れられた事を感謝しております。又、意義深い講演を企画して頂いた北里大学同窓会栃木県支部の皆さまに、心より御礼申し上げます。

まず、食中毒事件が起きると飲食店や患者さん、診察した医師等から、保健所の食品衛生監視員に連絡が入り、状況確認が始まります。『原因となる施設は何処か。何時食事をしたのか。提供した食事の残品はあるか。発症者は何人程度か。他の集団でも発症者がいるのか。従業員は何名いるのか。』

試験検査課には、この段階で第一報が入り、検査準備が始まります。

使用培地（24種類）の使用可能残数確認。週末の課員各自のスケジュール確認。実施中・実施予定のルーチン検査の調整。（この段階では、まだまだ、余裕があるのですが...）



（1 検体の検査に使用する培地等です。）

状況確認がすすみ、食中毒事件として調査を開始する決定が下されると、いよいよ本格的に準備開始です。主な食中毒の検査対象は、①患者検便・従業員検便②食品残品・検査用保存食（検食）・使用水等③調理場の環境ふきとり検体になります。それぞれに、試験系が違いため、検体毎に培地の使用枚数を変えて準備しなければなりません。

が！この段階では、まだ正確な検体数が把握出来ないため、使用培地が足りないのも困るし、作りすぎて廃棄するのも困る。その上、②食品検体③ふきとり検体には、搬入後6時間以内で検査が推奨されており、培地の作成に一刻も早く着手したい。ジレンマの中、経験則でとりあえずの枚数を決め、作成に時間のかかる培地から作り始めます。粉末培地に蒸留水を加え、温浴で溶解し、高圧蒸気滅菌。これが、11種類。高圧蒸気滅菌器3台がフル稼働です。

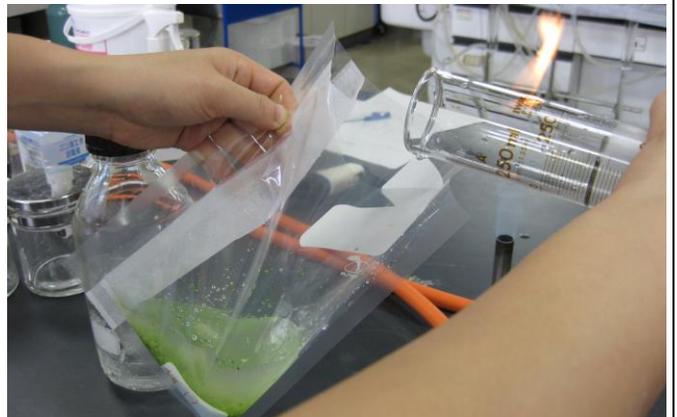
滅菌の待ち時間には、滅菌不要の培地6種類。粉末培地に蒸留水を加え、温浴で溶解し、シャーレに流し固める。（この辺りで夕食時ですが、まだまだ、休憩にはならず.....）

この頃になると、より詳細な検体数がわかって来るので、本日の不足分が無いかの確認と、不足分の追加作成の準備と、滅菌後が終わった培地を冷まし、シャーレに流し固める。



（これで足りないかもしれない。もっと作らなければ...）

ほとんどの場合、これら作業が終わらないうちに検体が届き、作業の傍らで検体の内容確認と検査項目の確認が行われます。（果たして、準備した培地は足りるのか??）



（検体の処理です。検査の第一歩です。）

検体と培地が出揃い、使用培地の乾燥が終わると、やっと検査が始まります。

①検便は明日以降の搬入となりますので、当日は②食品検体③ふきとり検体の検査です。

②食品検体は、細かく切り刻み5つに分けて、それぞれ液体培地（4種類）と希釈液で10倍希釈。希釈後の培地は1~2分程度よく混ぜ合わせてそのまま培養し、明日以降分離培地に塗抹し培養します。希釈液は同じく1~2分程度よく混ぜ合わせてから、0.1mlずつ作成した13種類の培地に塗抹し培養します。

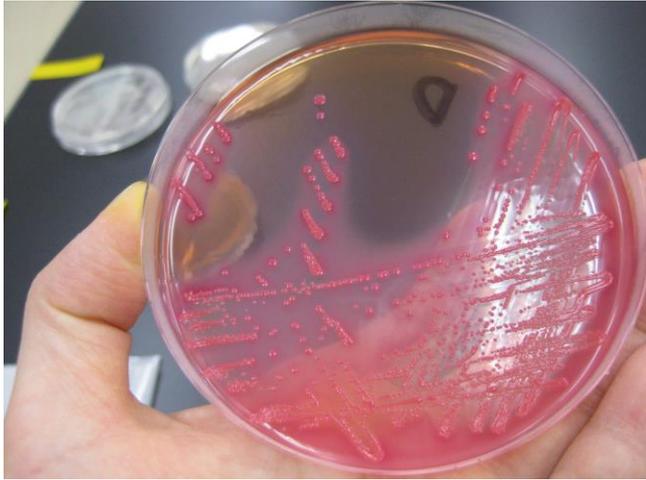
③ふき取り検体は、よく混ぜ合わせてから、0.1mlずつを作成した13種類の培地に塗抹し、残りを3種類液体培地で10倍希釈をして培養します。

ここで一日目の検査が終了です。（準備する培地の量や、検体数によっては、日付が変わっての帰宅となってしまいます。）

二日目は、朝から足りない培地と生化学性状試験のため培地の準備、①検便の搬入・塗抹、前日培養した②③食品・ふき取り検体の判定・継続検査。

三日目も、足りない培地の準備、前日搬入出来なかった①検便の搬入・塗抹。前日培養した①検便の判定・継続検査。前日に続き②③食品・ふき取り検体の判定・継

続検査。



四日目も、.....

このような経過で、細菌性食中毒に関しての検査は、1週間～10日程続きます。

今は、ノロウイルスの食中毒が主流で、遺伝子検査により24時間以内に原因菌がノロウイルスかは判明するのですが、ノロウイルスが原因菌と判明した場合でも、複合汚染の探知を目的に、細菌性食中毒菌検索は続行されます。

日本のどこかで食中毒事件発生の記事を見かけたら、事件規模の大小に係わらず、私たち検査担当者が休日返上で働いていることを、思い出していただけるとうれいす！

セピア色の思い出 50年前の記憶

1967HH 入学 滝 龍雄

先日、北里大学入学50年を記念して、大学時代のクラブ(ワンダー・フォーゲル部)の仲間と、酒を飲みながら、お互いに健康での長い付き合いを感謝し、当時の思い出話で盛り上がった。その時に話題になったことで、現在では知っている人も少なくなった当時の事を、若い卒業生(丁度、僕の子供世代以下)に紹介します。

北里大学は衛生学部化学科と衛生技術学科の2学科で1962年に創立されました。僕は1967年(昭和42年)、北海道から遙々津軽海峡を越えて東京にやってきた衛生学部の6期生でした。

僕たちは、4年間白金で勉強した最後の学年で、次の年から一年生は相模原で全学部と一緒に(当時は衛生学部の他に薬学部と獣医学部がありました)講義を受けるようになり、そのうちズーッと相模原で過ごすようになった。僕たち一年生は、体育の授業の一環で、翌年の新入生が体育等で怪我しない様、小田急に載せられ相模大野から徒歩でキャンパスのグラウンドに向かい、石拾

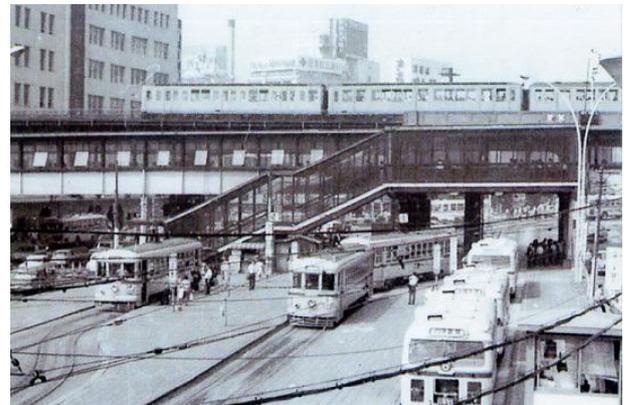
いをした後、再び徒歩で小田急相模原まで行きました。何はともあれ、入学した時は、東京の事も分からないので、当時埼玉県川越市にあった北海道の学生寮に住むことにしたが、入寮手続きのために地元から「米穀配達通帳(通称;米穀通帳)を持ってくる必要があった。



(米穀通帳です。見たことがありますか?)

これがないとご飯が食べられなかったのです。大学近くのアパートに引っ越しをした時にも、近所で自炊用のお米を買う際に必要でした。「米穀通帳」はその後間もなく廃止され自由にお米を買えるようになりました

もう一つ今はなくなったものに渋谷から天現寺方面に向かう都電です。大学二年の時、今年度限りでこの路線が廃止されるとの事で、東京の思い出として一年間都電で通う事にしました。現在はバスが走っています。



(当時の渋谷の都電乗り場。都営銀座線の地下鉄が見えます。)

都電は明治通りを通り、渋谷から天現寺まで30分以上かけてのんびり走りました。都立広尾病院も古い建物でした。

編集後記: 馬淵先生の公開講演会は100人以上の出席で楽しく進みました。でも、馬淵先生の真価が発揮されたのは中野さんの報告にもあるように二次会の席でした。書いてしまうと申し訳ないので、又、機会を見つけてお聞きください。ところで、悲しいニュースが18日にありました。皆様もご存知の105歳の現役医師、日野原重明先生が亡くなりました。先生はウィリアム・オスラー(William Osler、カナダ生まれの医学者、内科医)に私淑しオルラリアンとしても有名でした。そのうち支部でもご講演をと思いましたが残念です。ご冥福をお祈りします。(滝 龍雄)